ご寄付の使途レポート　No.7　　（2009 年 5 月～7 月分）

2009 年の 5 月から 7 月の間に皆様から頂戴したご寄付は合計で 121,439,262 円でした。その内 89,866,423 円の送金を実施、その使途および送金先の状況について、以下のとおりご報告申し上げます。

送金国	使途	送金額（円）
ウガンダ	社会開発支援	15,000,000
グアテマラ	復興支援	14,866,423
スワジランド	復興支援	15,000,000
バングラデシュ	社会開発支援	30,000,000
東ティモール	社会開発支援	15,000,000
計		89,866,423

(注)　ご寄付の 75%は、国連 WFP 協会から WFP 国連世界食糧計画ローマ本部に送金され、開発途上国での人道支援活動に活用され、ご寄付の 25%の範囲内で国内の募金活動費、啓発広報費、管理費等の経費に充当しています。尚、同期間にお預かりしたご寄付の 75%金額（91,079,446 円）と上記送金額（89,866,423 円）との差額 1,213,023 円は後日送金の予定です。

■ウガンダ

教育の普及と男女間の格差の是正を目指します

ウガンダには紛争と自然災害で深刻な被害を受けている地域が数多くあります。とりわけ国の北部では、内戦により 98 万人以上もの人々が生活の拠点を奪われ、避難を余儀なくされています。隣国の穀物需要の増加や不作によって、食糧価格が 50 パーセントも上昇し、すでに脆弱になっていたウガンダの食糧事情に深刻な影響を与えています。WFP は、困難な状況に置かれた約 140 万のウガンダの人々を支援しています。北部と南西部では国内避難民と隣国から逃れてきた人々を中心に食糧支援を行っています。そして、急性栄養失調や慢性の飢えに苦しむ人々が後を絶たない北東部のカラモジャ地方で集中的に食糧支援を実施しています。

皆様から頂戴したご寄付は、ウガンダのカラモジャ地方での学校給食プログラムに活用されます。カラモジャは、ウガンダでも初等教育の就学率が最も低い農牧地域です。特に女子児童の識字率は 6 パーセントと低く、全国標準をはるかに下回ります。WFP は、同地域の全ての小学児童を支援しています。朝食に栄養強化を施したトウモロコシと大豆をブレンドしたおかゆ（CSB）、そして昼食にはトウモロコシや豆、ビタミンＡ強化植物油[1]、ヨード添加塩[2]を使った温かい食事を、年間 180 日提供しています。

[1] ビタミンＡ欠乏は、子どもの失明の原因になります。
[2] ヨード欠乏は、脳障害および知能遅滞を引き起こす原因になります。

小学校高学年になると女子の出席率が大きく下がるため、特に女子児童の出席を促すため、学期毎に80%の出席率を達成した 4 年生から 7 年生の女子児童には 25kg のおかゆの粉と 3.7 リットルの栄養強化の施された植物油を持ち帰り食糧として提供しています。

■グアテマラ

母子健康プログラムの様子

グアテマラでは、5 歳未満の児童の半数近くが慢性的な栄養失調に苦しんでおり、年齢の割に身長が低いなど発育不全の子どもが多くいます。これは世界では 6 番目に高い比率で、ラテンアメリカ・カリブ地域においては最も高い率を占めています。乳児の 12 パーセントが未熟児で、3 歳以下の幼児の半数は慢性的な栄養不良に悩まされています。この問題は、特に農村地域の先住民の間に集中しています。

頻発する干ばつや洪水が、最も脆弱な層にある人々に深刻な影響を及ぼしています。とりわけ子ども達が栄養失調を原因に発病や死亡のリスクにさらされており、所得格差の拡大による貧困層の増大も懸念されています。

皆様から頂戴したご寄付は、社会で一番弱いとされる女性や子どもを対象に母子健康プログラムに活用されます。WFP は、幼児および妊産婦が栄養および健康のニーズを満たすことができるように支援を行っています。母子健康プログラムの目的は以下の通りです。

- 対象地域における 5 歳以下の児童の急性栄養失調を減らし、危機的状態にある生命を救うこと
- 6 カ月から 36 カ月の幼児、妊婦、授乳中の女性の栄養状態の低下を防ぎ、子どもや母親、その他弱い立場の人々の栄養状態や健康状態が改善され健全に保たれるよう支援すること

上記の目的を達成するために、WFP は：

- 適切な栄養強化混合食糧であるビタシリアルを提供することにより、幼児の栄養状態の改善を支援
- ビタシリアルを提供することにより、妊婦及び授乳中の女性の栄養状態の改善を支援
- トレーニングを通じて、栄養及び健康、衛生、看護を改善
- グアテマラ政府厚生省が提供する基本医療サービスと連携しながら、女性や子どもの栄養及び健康状態を改善。この連携により、WFP は子どもの成長観察、予防接種、寄生虫駆除、母子への鉄分・葉酸補給、妊婦のための胎児検診などの様々な支援を実現
- 地域社会における女性の役割の促進と地位の向上を目指す

■スワジランド

国土 17,000 平方キロメートル、人口 93 万人のスワジランドは、HIV・貧困・自然災害、そして基本的な社会事業の弱体化等多くの困難に直面しています。成人人口の約 26 パーセントは HIV に感染しており、またエイズによって、8 万人の子ども達が孤児になっています。人口の推計 48 パーセントもの多くの人々が貧しい生活を強いられており、平均寿命は世界で 2 番目に低い 40.9 歳です。スワジランドでは、気候変動による長期間の干ばつ、雨水頼りの農業および農業技術の遅れ、エイズ蔓延による労働力不足などのため、農業生産量が減少し続けています。人口の 70 パーセントが農業に従事しているため、

これらの問題はとりわけ弱い立場の人々を食糧不足による深刻な不安に陥らせています。WFP の活動の目標は、エイズや貧困、自然災害の影響を受けた最も脆弱な世帯における食糧確保、生活、生産力を改善することです。

WFP は以下の４つの目的を達成することに努めています。

- 各世帯の食糧受給安定及び不安定な食糧入手状況に対処し、非常時に備える
- HIV 感染者や結核患者に対する薬の配布にあわせ、栄養状態改善の為の食糧支援を実施
- 孤児など保護を必要とする子ども達への基礎教育や自治体支援の円滑化
- 支援必要性に対する評価、災害への準備や対策、支援プログラムの管理について、政府主導の公共機関、自治体組織、その他協力関係にあるパートナーとの連携を強化しその機能を高める

幼くして親を失い生活する術を持たない子ども達を支えます

■バングラデシュ

低所得で恒常的食糧不足に悩むバングラデシュは、インド、中国に続いて 3 番目に飢えに苦しむ人が多い国です。約 2,800 万人の極度の貧困にあえぐ人々が、一日 1,805 キロカロリー以下の食事で生き延びていて、頻発する自然災害、所得格差の拡大によって命と生活が脅かされています。特に女性や子どもの栄養失調が非常に多く、状況は更に悪化しています。

皆様から頂いているご寄付は、飢えの悪循環から抜け出せない極めて貧しい女性のための支援活動に活用されています。同活動では、女性たちが政府や NGO による支援活動に参加できるよう、食糧を配給しています。WFP では、地方で暮らす貧しい女性たちの栄養状態を改善しながら、自活を促すことを目的としています。最も貧困に苦しむ世帯の女性が対象から除かれることがないよう、厳しい選択基準を設け、その過程を注意深く見守っています。女性たちが現金収入を得て自活の道を開けるよう、製造技術などの職業訓練を実施するなど様々な支援を行っています。職業訓練を受けた女性には、毎月一人当たりシリアルを 30kg あるいは栄養強化を施した全粒小麦粉を 25kg 提供しています。

職業訓練を受ける女性

ご寄付はまた、バングラデシュの学校給食プログラムに活用されます。WFP は、微量栄養素摂取量を改善しながら、就学率と出席率を高め、退学者を減らし、また、学習効果を高めることを目的として、学校給食を提供しています。対象地域における政府及び NGO 管理の小学校へ通う児童には、毎日栄養強化ビスケットが提供されます。学校給食プログラムは、各地域における学校管理委員会に参加している親と地域の人たちによって推進され、2015 年までに普遍的初等教育を達成しようというバングラデシュ政府のコミットメントを踏まえて実施されています。

■東ティモール

東ティモールは、アジアで最も貧しい国です。生産性の低い農業、干ばつなどの自然災害、疲弊した経済状態、不安定な治安状況などのため、慢性的な食糧不足に悩まされています。人口 100 万人の内の大多数が、常に栄養不足に陥りやすい状況にいます。経済面では石油部門を除いて、停滞あるいは衰退したままで、人口の 40 パーセント以上の人が 1 日 55 セントという貧しい生活を送っています。こうした状況を克服するため、WFP は次のような目的に沿って活動を行っています。

- 世帯毎の食糧確保状況の改善
- 社会的に不利な立場に置かれている人々の栄養と健康状態の改善
- 初等教育における就学率と出席率を高め、児童の飢えに対する応急的な対応を実施
- 突発的な災害に対応するため備蓄食糧を維持
- 国内避難民の定住促進

また WFP では、政府機関の災害に対する準備や対策、食糧を基本とした社会的なセイフティネットの確立、そして栄養強化食品を生産するための施設の設立についての援助を行っています。更に、WFP は、同国の輸送システムやインフラの改善について東ティモール政府の援助を行っています。

「ネニアナちゃんからのありがとう」

10 歳のネニアナ・ノラ・ダコスタちゃんは、オッソアラ学校の小学 3 年生です。彼女は、両親、妹、弟と暮らしています。ネニアナちゃんは、2006 年から学校に通い始めましたが、次の 2007 年に 2 年生に進級することができませんでした。「学校に行くと具合が悪くなったの。いつもおなかがすいていて、全然勉強できなかった」とネニアナちゃん。2007 年 9 月、WFP と東ティモール政府は、オッソアラでの学校給食プログラムの協力体制を拡大しました。それ以来、ネニアナちゃんに様々な変化がもたらされました。「もう具合は悪くならないわ」とネニアナちゃん。「クラスメートや先生と楽しく給食を食べてるの。勉強も楽しい。」WFP の学校給食プログラムが小学校で開始されてから、ネニアナちゃんは勉強に集中できるようになりました。試験の結果も、過去と比べて著しく良くなりました。担任の先生も、彼女の勉強に対する姿勢の変化に驚いています。現在小学 3 年生になったネニアナちゃんは、給食に支えられながら勉強に励み、将来に希望を抱く子どもへと成長しています。

WFP の給食で変わったネニアナちゃんとお友達

※本レポートは、WFP 本部の報告を国連 WFP 協会が翻訳し、まとめています。